

《巻頭言》

タバコの煙のないおいしい空気を — 受動喫煙ゼロを目指して —

第4回日本禁煙学会学術総会会長
札幌社会保険総合病院院長 秦 温信

このたび、第4回日本禁煙学会学術総会を2009年9月12日(土)、13日(日)の2日間にわたり全国政令都市では最も「おいしい空気」の町とされている札幌の地で開催させていただくことになりました。本学会学術総会は学会の創立とともにまだ日が浅いとはいえ、ますます大きく発展する途上にあり、学会のさらなる発展をめざす契機となる学術総会にすべく、担当者一同鋭意その準備を進めているところです。また、会長として、その責任の大きさに身の引き締まる思いです。

本学術総会では、「タバコの煙のないおいしい空気を—受動喫煙ゼロを目指して—」をメインテーマといたしました。タバコ規制枠組み条約(FCTC)は2005年2月に発効しましたが、その中の受動喫煙防止条約ともいえる第8条のガイドラインは2007年7月にタイ・バンコクでのCOP2(第2回締約国会議)で承認されています。それによると、2010年2月までに公共の場、職場、レストラン、交通機関などを例外なく完全に禁煙にするよう義務づけられています。我が国でも、2003年5月に施行された「健康増進法」第25条において「多数の人が利用する施設の管理者は受動喫煙を防止するための必要な措置を講ずるよう努めなければならない」ことが規定されております。日本禁煙学会でも、発足以来その遵守を訴えてきておりますが、今まさにその活動を加速しなければならない時期にきており、そんな背景から本学術総会のテーマに「受動喫煙ゼロを目指して」を掲げたわけです。

北海道は依然喫煙率日本一の汚名から脱却できないでおりますが、そのような背景もあって以前から様々な活動がなされてきました。「非喫煙者を守る会」(代表 黒木俊郎本学会理事)は全国初の非喫煙者団体として1977年に発足以来、「北海道・分煙社会をめざす会」(代表 清水央雄本学会理事)は1998年発足以来活発な活動をしてきております。日本禁煙推進医師歯科医師連盟北海道支部も1997年以来北海道医師会はじめ各界との連携で活動を続けており、2004年には第13回日本禁煙推進医師歯科医師連盟学術総会を札幌の地で当院の佐野文男前院長が会長となり、当院でお世話させていただいております。当院は2000年元旦より全国に先駆けて敷地内全面禁煙を実施しておりますが、札幌のホテルとしては先進的に禁煙に取り組んできた当院向けのシェラトンホテル札幌が会期中全客室を含む敷地内禁煙を実施していただけることになり、学会場として決めさせていただいたのは大きな収穫といえます。折しもこの地区である厚別区の開基20周年にあたることから、この学術総会がその記念行事の一環との位置付けもあり、この地区の禁煙化が進むきっかけになれば望外の喜びです。

本学術総会では、シンポジウム「ストップ!ザ・受動喫煙」を企画し、松沢成文神奈川県知事には基調講演を、高橋はるみ北海道知事には特別発言を依頼しております。そして、海外からは禁煙活動の世界的権威であるオーストラリアのProf. Simon ChapmanとDr. Harley Stantonによる特別講演を予定しております。さらに、2日目の午後には市民公開フォーラム(北海道医師会・日本禁煙推進医師歯科医師連盟北海道支部・日本禁煙学会北海道支部共催)の第6回北海道禁煙フォーラムを兼ねる「タバコをやめて元気で長生き!今からでも遅くない」を企画しており、その第1部では少女合唱団Bella Rosa Coroによる記念コーラス、第2部では白井一幸元日本ハムファイターズヘッドコーチによる基調講演と島本和明札幌医科大学教授、松崎道幸本学会理事による講演も予定しています。

初秋のこの時期は秋鮭漁が始まるなど最も豊富な食材が集まり、澄んだ空気と青空がどこまでも広がる北海道で1年のうち最も快適な季節とされています。このような時期に「受動喫煙ゼロを目指して」に多数の皆様のご参加をいただき、有意義な討論が行われますことをお願いいたします。皆様のおいでを心からお待ちしております。